

令和6年度

高鍋町立高鍋西中学校

学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

4段階評価

【

A・・・よい

B・・・概ねよい

C・・・あまりよくない

D・・・わるい

】

| | |
|-----------------------------|--|
| 教育目標 | 「親愛」～誠実・友愛の精神、勤労と奉仕の精神、感動など「豊かな人間性」「英知」～自ら学び、自ら考え、その学びを正しく生かし「課題を解決する力」「鍛練」～健康・安全や目標に向かって自らを「鍛え磨く力」 |
| 目指す学校像 目指す生徒像 目指す教職員像 | ○ 明るく、美しく、活気のある学校 ○ 学ぶ意欲を育て、知的好奇心を満足させる学校 ○ 一人一人が存在感のある学校 ○ 地域の信頼にこたえる学校 ○ 自他の良さを認め、友情を育み、個性を生かし協同して活動する生徒 ○ 知的好奇心にあふれ、自ら学び、考え、課題を適切に解決しようとする生徒 ○ 命と健康を大切にし、自ら進んで心や体を鍛え磨く生徒 ○ 生徒とともに学び続ける教師 ○ 生徒と夢を語り、確かな力を付ける教師 ○ 生徒の心をつかみ、気付き、動き、見届ける教師 ○ 生徒の手本となり、尊敬される教師 |
| 学校経営 ビジョン | 『チーム西中』を合い言葉に、「フットワーク」「ネットワーク」「チームワーク」を徹底して学校・家庭・地域が一体となって「知・徳・体」の調和のとれた活力ある教育活動を推進することにより、「学びたい 学ばせたい 通いたい 通わせたい」学校づくりを推進する。 ★意識してほしいキーワード～【Chance Challenge Change】 |

| 評価項目 | | 方 策 ・ 手 立 て | 評 価 指 標 | 自 己 評 価 | | | | 学 校 運 営 協 議 会 委 員 評 価 | | |
|---|--|------------------------------|---|---|----------|---|--|--|--|----------|
| | | | | 指標別 | 総 合 | 結果や状況の考察 | 改善策等 | コ メ ン ト | 評価 | |
| た か な べ 学 校 エ ン パ ワ ー 事 業 | 子ども一人一人の学力を伸ばすための実学校づくり | 知 | ○「わかる・できる」を実感させる授業づくりの推進 | ○「ひなたの学び」を校内研究に位置づけ、協働的な学びと個別最適な学びの実現に努める。 | A | A | ○教科に関係なくグループを組み教師同士で相互参観を実施してきた。 | ○今後も効果的な ICT の活用や既習事項の定着と、テスト後の対策強化に積極的に取り組み学力の向上を目指したい。 | ○発表しやすい環境づくりや、個性別の発表方法もあって良いと思う。 | A |
| | | | ○ICT活用の意図的・計画的な推進。 | ○ロイロノートやキュビナを活用した協働的な学びと個別最適な学びの推進。 | A | | ○「授業が理解できている」90%「授業では進んで発表している」と答えている生徒が43%以上であった。 | ○活用したキャリア教育「ひなた場」を実施し、学ぶ意欲の向上につなげたい。 | ○「ひなた場」は、生徒の学びの意欲を高め、進路選択に役立つので重要な取組だと思う。あらゆる職業やキャリアに広げてほしい。 | |
| | | | ○学ぶ意欲を高めるキャリア教育の推進 | ○高校のオープンスクールや諸活動への積極的な参加 ○地域人材の積極的な活用 | B | | ○学校は ICT を効果的に活用していると感じている保護者が95%いる。 | ○教員同士での相互参観の取組は素晴らしい。レベルアップに効果あり。 | | |
| 学 校 エ ン パ ワ ー 事 業 | 子どもに寄り添い、子どもの自己肯定感を高めるための特別支援教育・生徒指導の研究・実践 | 徳 | ○SCやSSW等の関係機関との連携強化 | ○生活アンケートの計画的な実施 ○不登校生徒の解消 | B | B | ○SCやSSCとの連携は充分にとれ、改善に向かったケースもあった。 | ○今後もSCやSSWを活用しつつ、様々な方面からのアプローチを試みながら、不登校の減少につなげたい。 | ○ボランティアの種類を示し、自分に合ったものを探してもらおう。またどのようなものがあるのか紹介してほしい。 | B |
| | | | ○道徳教育、人権教育の推進 | ○学年職員全員による道徳授業の実施 | B | | ○道徳は学年職員全員で実施することができた。 | ○不登校生徒数の増加は全国的な課題だと思います。自宅での学習も可能ではありますが、学校でしかできないことも多いと思います。不登校の解消に向けて、根気強く声かけ等を行ってほしいです。 | | |
| | | | ○生徒の自主・自立を基本にした生徒会活動の活性化 | ○リーダーシップ・メンバーシップによる生徒会活動の活性化 ○学校が楽しいと感じている生徒が80%以上である。 | B | | ○清掃や学校行事等に積極的に取り組む生徒が82%である。 | ○PTA活動と連携していけるとよい。石井十次について学びを更に深めたらどうか。 | | |
| ワ ー ク ス 事 業 | 地域が一つになって高鍋町を育てる連携の実践 | 体 | ○スクールスポーツプランに基づいた継続的な実践と部活動との連携 | ○体力テストのスコア50以上の生徒が60%以上 | B | B | ○体力向上プランのもと、体育の授業や昼休みの体育館開放の実施等で体力の向上を図ってきた。 | ○個々の基礎体力を更に伸ばすため、生徒会とタイアップしながら学校全体で取り組んでいく。 | ○危機管理能力向上の実践的体験会で各方面からのアドバイスをもらう。 | B |
| | | | ○全職員による給食指導のマナー育成と食育の推進 | ○給食の残食を1日平均2.0kg ○朝食抜きの生徒ゼロ | B | | ○「早寝 早起き 朝ごはん」を実践している生徒は70%、保護者が77%でほぼ同じ回答だった。 | ○規則正しい生活を送るよう保護者にも啓発を行う。 | ○朝の朝の見守りをしているが、自転車で登校している生徒は交通安全によく気を付けている。 | |
| | | | ○安全教育の充実による安全意識の高揚と危険回避能力の育成 | ○交通事故等の撲滅 ○関係機関を活用した安全教育の実施 | B | | ○年3回、交通安全教室を実施している | ○交通安全に関する常時指導を確立する。 | ○スマホ利用での夜更かしで生活のリズムが狂っている子どもが増えている。犯罪に巻き込まれるリスクもあるので、保護者を含めた啓発、勉強会が必要なのではないかな。 | |
| 読書活動の充実 | | ○ 読書の時間や町・県の図書館活用事業を有効に活用する。 | ○ 1・2年生は1か月で2冊以上、3年生は1冊以上の読書をする。 | C | | ○読書の習慣ができていない生徒が38%であり、読書の習慣が身に付いていない。 | ○図書委員会と協力しながら読書の推進を進める。 | ○新聞を読む週間から始める。 | D | |
| 心豊かな生徒の育成 | | ○ 互いに尊重し合う集団づくりを行っていく。 | ○ 気配りや思いやりの心をもって人に接している生徒が80%以上である。 | A | | ○「友人に優しく接している」と思っている生徒が94%であるが、今後も生徒の様子を注視していきたい。 | ○道徳教育の推進と外部講師を積極的に活用した人権教育に取り組みたい。 | ○様々なテキストを用いてあらゆる場面を想定した教育が大事。 | A | |
| 体力向上の推進 | | ○ 部活動・社会体育クラブ加入率をさらに上げる。 | ○ 部活動（文化部を含む）・社会体育クラブ加入率が70%以上である。 | B | | ○本年度の校外活動を含む部活動の加入率は65%であり、昨年度と同じ水準だった。 | ○部活動、校外活動未加入の生徒の基礎体力の増進を図る。 | ○体育大会を活用し、モチベーションの維持をはかる。 | B | |
| 防災教育の推進 | | ○ 避難訓練や防災の日の取組を計画的に行う。 | ○「学校は、安全な登下校や身を守る態度の育成に努めている」が80%以上である。 | B | | ○生徒・保護者ともに「安全意識・危機管理」意識は90%以上だった。 | ○様々な場面を想定した避難訓練を実施する。 | ○危機感に意識が90%であることに驚きである。 | B | |

【次年度の方向性についての校長所見】

校内研修において昨年から取り組んでいる効果的なICT活用による授業改善の取り組みを、本年度は学力向上につなげるために、相互参観を計画的に実施し、組織的に実践してきた。今後もこれまでの研究の成果を生かし、生徒のさらなる学力の向上を目指したい。また、生徒の主体的な活動においては、「リーダーシップ・メンバーシップ」の精神のもと、学校の諸活動で生徒が活躍する場をさらに設定していきたい。キャリア教育においては、地域コーディネーターやキャリア教育支援センター等との連携を深めると共に、地域の人材を生かした活動を推進をしていきたい。

